

Excellence Porsche **33** 911 GT3 R

2016 AUTOBACS SUPER GT
Race Report

Motegi Rd3

November 12 2016

Naoya Yamano / Jörg Bergmeister

Qualify : 10th (1' 57" 795)
Race : **2nd** (50 Laps)



2戦連続のポイント獲得を果たした第7戦タイから1ヶ月強。いよいよ2016年のSUPER GTは最後のラウンドとなるツインリンクもてぎでのレースを迎えた。今回のレースは、熊本地震復興支援大会として第3戦の代替開催を11月12日(土)に、第8戦を13日(日)に開催する。このラウンドでも、Excellence Porsche Team KTRは山野直也とヨルグ・ベルグマイスターのコンビで挑む。

今回は土日にそれぞれ予選、決勝を行うこともあり、11月11日(金)に2回の公式練習走行が行われた。あいにくのウエットコンディションとなってしまうため、晴天が予想されていた土日に向けたデータを収集することはできなかったものの、このもてぎでの走行が初めてとなるベルグマイスターの習熟を中心にメニューを重ね、公式練習1回目は4番手、雨量が減った公式練習2回目は11番手で終えた。2回目ではGT500車両とヒットし、コースアウトしてしまうシーンもあったが、大きなダメージなく金曜の走行を終えた。

迎えた12日(土)の第3戦は、朝から晴天に恵まれた。ただ、前日からの雨が残り路面は濡れている。スリックタイヤが装着できる可能性もあったが、第3戦の15分間の予選を担当することになった山野は、即座にウエットタイヤを選択。いざ予選が始まってみると、少数のスリック装着車が苦戦したこと、山野の選択は大正解だったことになる。

午前8時50分からの予選で山野が駆る

Excellence Porscheは、路面が乾いていくまで周回を重ねていき、アタックを展開していく。「個人的にはいいアタックができたと思う」という山野のタイムは、1分57秒795。ただ、もう少し上位を狙えるかと思いきや、ライバルのタイヤメーカー装着車が上位に入り、10番手というグリッドになった。

とはいえ、表彰台は十分に狙える予選グリッド。多くのゲストが訪れExcellence Porsche Team KTRのピットが賑わいを見せるなか、午後1時10分からのスタートのときを迎えた。

スタートドライバーを務めたのは山野。Excellence Porscheはレース中盤に向けてグリップダウンが発生することを予想し、リヤにハードめのタイヤを装着しスタート。序盤、#55 BMWがクラッシュしセーフティカーが導入されるなか、#2 ロータスに先行されたものの、10番手で序盤のレースを戦っていく。ハードめのタイヤであるためにトップ集団から離されていく予想もあったが、しっかり山野は前を追走。それどころか、中盤を迎えると周囲のマシンがグリップダウンしはじめたのだ。

そのなかで、Excellence Porscheは安定したペースで周回を重ねていき、ライバルたちがピットに向かうとひとつ、またひとつとポジションを上げ、25周目には首位に浮上してみせた。当初から給油時間を少なくするためにピットインを遅らせる作戦だったが、これがさらにポジションアップを呼ぶ。

32周を終え、山野はExcellence Porscheをピ

ットに戻す。本来、さらにピット時間を短縮するためにタイヤ2本交換を予定していたが、山野のインフォメーションにより、4本交換で得られるゲインの方が多いと判断し、タイヤ交換、給油とフルサービスでベルグマイスターをコースへ送り出した。全車がピット作業を終えると、Excellence Porscheの順位は5番手。表彰台を射程圏内に捕らえた。

フレッシュなタイヤで勢いに乗るベルグマイスターは、ドライのもてぎが初めてとは思えぬ走りを見せる。まずは36周目に#0 GT-Rをとらえ4番手に浮上すると、前方にはタイヤ無交換作戦を採っていた#11 メルセデスが近づき、44周目にこれをパス。ついに表彰台圏内となる3番手に浮上した。

さらにベルグマイスターは、2番手を走っていた#88 ランボルギーニに接近していく。急激にギャップを縮めると、迎えたファイナルラップの1コーナーで#88 ランボルギーニのインへ！首位を走っていた#21 アウディも射程にとらえたが、レースはチェッカー。優勝こそ届かなかったが、悲願の2位表彰台を獲得してみせた。

この表彰台は山野にとっても、そしてベルグマイスターにとっても初めてのSUPER GTの表彰台。チームが一丸となって努力した結果が、RRレイアウトがフィットしているこのもてぎで華開いた。「Excellenceとして参戦して、表彰台まで2年かかってしまいましたが、嬉しいです」とプロジェクトを主導してきた山野も、笑顔で語ってくれた。

Quote.



Naoya Yamano A Driver

予選はタイヤ選択に迷いましたが、ウエットを確信していったのが当たりでした。ノーミスで10番手でしたが表彰台を狙えるところだったので、前向きに臨みました。レースでは間違いなくタイヤがタレてしまうと読み、リヤにハードめのタイヤを装着した作戦が的中しました。チームを構築してきて2年、みんなの努力、ヨルグの力もあって2位表彰台という結果を出せて嬉しいです。

Jörg Bergmeister B Driver

もてぎは初めてだったし、レースが初めてのドライブだったけど、思ったよりいいタイムを出せたね。クルマも素晴らしかったし、ロングランも良かった。何かかのライバルはタイヤを換えていなかったのでもオーバーテイクは難しくなかったよ。でも、上位は接戦でバトルは楽しめた。2012年、トップを走りながら兄がクラッシュして表彰台に乗れなかったの、初めての表彰台は嬉しいね！



Tadashi Fujita Team Principal

本当に良かったです。嬉しいですね！ 2年かかってしまったので少々長かったです、今後に向けてさらに楽しみが増えました。山野選手も素晴らしい走りを見せてくれましたし、ベルグマイスター選手のオーバーテイクには本当に感動しました。チェッカーを受けたときには、思わず涙してしまいましたね。今度はさらに表彰台の頂点を目指していきたいです。

Toshiaki Takeda Team Director

給油時間を短くするいつもの作戦に加え、ペースを見ながらピットインタイミングを決めました。周囲がピットインしたこともありコースもクリアになったので、山野選手にはプッシュしてもらい、さらに当初予定の2輪交換から、4輪交換に変更することにしました。その後はヨルグ選手にプッシュしてもらいましたが、大成功でしたね。結果を残すことができ本当に良かったです。



www.porsche.ktouch.jp

 fb.me/porsche911gt300

Porsche Center Aoyama Porsche Center Meguro Porsche Center Ginza
Setagaya Pre-Owned Car Center Koishikawa Pre-Owned Car Center